



会長 小林 幹夫 青少年奉仕 橋本八右衛門
副会長 道尻 誠助 幹事 正部家光彦
クラブ奉仕 会 計 佐々木泰宏
会長エレクト 紺野 広 会場監督 峯 正一
職業奉仕 妻神 和憲 直前会長 小井田和哉
社会奉仕 地代所久恭 副幹事 松本 剛典
国際奉仕 中村 稔彦 会計補佐 山村 和芳

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 荒谷 達也
同 委員 廣田 茂 同 委員 道尻 誠助

国際ロータリーのテーマ — 2022~23 — 八戸ロータリークラブのテーマ
イマジン ロータリー ロータリーの力を信じよう!

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

八戸ロータリークラブ会長 小林 幹夫

11月 は ロータリー 財団 月間 です

第3248回例会 2022.11.2

▶ ゲスト 国際ロータリー第2830地区
学友会事務局 富岡義勝さん

会長要件 小林 幹夫 会長



11月はロータリー財団月間です。きょうは村井達委員長が担当ですが、その一環として、ゲストにいらっしゃっている富岡義勝さんに卓話をいただこうと思っています。富岡義勝さんは今から6年ほど前に八戸ロータリークラブを退会されました。わたしが入会したのは2008年でしたが、その時の会長エレクトでした。わたしが入ったときにいろいろとロータリーのイロハを教えて頂いた、本当にロータリーの中でも数ある諸先輩方の一人という感じがしています。きょうはわたし自身が会長るときに、こうやっていらしていただけることに縁を感じるとしています。本日はよろしくお願ひします。

幹事報告 正部家光彦 幹事



○メルボルン国際大会参加ツアーのご案内
旅行期間：2023年5月26日(金)
～5月31日(水)3泊6日
募集人員：10名

旅行代金：658,000円

締切：2022年12月26日(月)

○ロータリーレートのお知らせ 11月1日より、1ドル=148円

○11月9日(水)の昼例会は休会です。11月11日(金)に八戸東ロータリークラブとの合同例会があります。

委員会報告

親睦・会場委員会 岡崎孝文委員長



○ニコニコボックスの報告
・誕生祝 鶴飼寿栄
橋本昭一さん
・結婚記念日 紺野 広
村館珠樹・松本剛典さん

富岡義勝さん 在籍中はいろいろお世話になりました。本日はつたない卓話で失礼致します。

小林幹夫さん 本日は富岡さんよろしく願います。

村井 達さん ゲストスピーカー・元会長富岡義勝さんを歓迎して。

道尻誠助さん 富岡さん再び入会して下さいとのこと。本日はよろしく願います。

赤澤栄治・夏川戸 齊 } ニコニコデー
山村和芳・渡辺 孝さん }

ロータリー財団委員会担当 ゲスト紹介

村井 達ロータリー財団委員長



ロータリー財団についてご報告させていただきます。

災害支援資金と住宅支援資金があります。災害支援資金は2022年3月～6月までの間の数字ですが、世界のロータリーからの支援額は890万ドル（145円換算で12億9000万円）です。寄付目標は1,500万ドル（21億7,500万円）。これはロータリー財団を通しての支援です。他に個々のロータリークラブやロータリアン個人からの支援も随分多いと思います。

もう一つ住宅支援資金があります。これはウクライナの2232地区のキーウシティロータリークラブに対して、日本の2830地

区も含む各地区からそれぞれで25,000ドル（3,425,000円）、合計400,000ドルで5,480万円の資金が住宅支援資金としてウクライナのキーウのロータリークラブに送られています。

寄付目標は年次寄付1人150ドル、ポリオプラス1人30ドル、合計180ドルの寄付目標を立てています。現在148円ですが、ぜひともご協力をお願いいたします。目標額でなくてもわずかでもけっこうです。頭に入れてご支援をいただけたらと考えています。

富岡義勝さんをご紹介します。現在、オーストラリアを本拠とするeクラブの会員です。その前は八戸ロータリークラブの会員でした。

1986～87年慶応義塾大学を卒業後、ロータリー財団国際親善奨学生としてクイーンズランド大学に留学。英語はペラペラです。現在は何か所かの英会話教室の先生をされています。ご本業はダイヤビル代表取締役です。2000年5月に八戸ロータリークラブ入会。八戸ロータリークラブ第55代会長。2004年以降、2830地区識字率向上委員長、国際奉仕委員長、ロータリー財団委員長をはじめとして全国的なロータリー財団の委員長、講師を歴任。国際ロータリー研究会のコーディネーター、講師役を何回か務めておいでです。特に財団関係ではひじょうに高度な見識をお持ちの、国際的な卓越ロータリアンです。



「ロータリー財団について」

富岡義勝さん



本日はロータリー財団のお話で大上段に構えていますが、思いつくままに、よもやま話風に皆さんにお話し申し上げたいと思います。先ほどご紹介にもありましたが、わたしとロータリー財団との関りは、今から35年以上前になります。

35年以上前ということは、1986-87年に留学

させていただいているので、その前の年に初めて八戸ロータリークラブと接触をもったこととなります。

当時わたしは大学生で、東京に住んでいました。どうしても留学したい。ただ親には面倒をかけたくないということで一生懸命奨学金を探しました。奨学金を探していたところ、一番条件が良かったのがトヨタ財団でした。

2番目に条件が良かったのは国際ロータリーの国際親善奨学生でした。実はわたしは今、八日町にいますが、番町側に番町ガレージという富岡利春さんがこちらの会員でしたので、申請書を送っていただき申請しました。1985年でした。今、話題になっているトップガンという映画の第1作目が出た年です。あれから35年経っています。

その時、ちょうど青森県全体と秋田県全体で3人選ばれましたが、たまたま選ばれた3人がすべて八戸出身という珍しいことでした。わたし以外のお二人はアメリカに留学され、そのうちの一人の田名部靖子さんは舞踏芸術、ダンスや舞踏の研究をされていました。が、留学中にニューヨークで自転車事故でお亡くなりになったというひじょうに痛ましい事故が起こってしまいました。

今は国際親善奨学金制度がなくなって、おそらく地区補助金で留学生を出すことはできると思います。ただ研究テーマが重点分野に限られているので、なかなか制約が厳しいと思います。わたしの行った頃は、例えば音楽選考の学生がイタリアやドイツ、オーストリアに行ったりして、帰ってきてからロータリーの全国的な行事の中で実力を披露したりすることもあったと思います。が、今はそういうことはできない。わたしの身近な先輩に、英文学をやっているからイギリスに行っているとか、知り合った人では言語学でベルギーに行った人がいますが、たぶんそれは今の制度ではできないことになると思います。でも、そういう重点分野と関係のないようなところで留学しても、何かロータリーとのつながりがあって、いろいろロータリアンに影響が与えられたり、いろんなことがあったほうが面白いような気がします。今はちょっと難しくなっているということです。

当時、留学するための手段として奨学金を選びましたので、ロータリーのことは全然知らないで、ロータリーのこと勉強不足でやっていました。オーストラリアに行ってしまうと関係なく、自分の好きなことができるだろう、それくらいにしか思っていませ

んでしたが、世の中なかなかそううまくいかないもの。わたしのオーストラリア側のホストクラブカウンセラー、わたしの面倒をみてくれる方が寄りによって、ブリスベンの地のミスターロータリアンとも言うべきパストガバナーでした。何かにつけていろいろとお世話になりながら、ロータリーのこときつく言われてきました。

むこうは2月に始まりますので、だいたい6月末で1つのセメスターが終わります。皆さん日本から行った人たちはあっちに行きたい、こっちに行きたいと計画を立てます。わたしの場合は、最初から行く場所が決まっていた。それがアウトバックという、オーストラリアの内陸部、赤茶けた土のところ。そこが地区に入っていました。そこにパストガバナーと二人で二人旅が決まっていた。彼はロータリーツアーと呼んでいました。いろんなクラブがあるところを転々として、わたしはローアリアンの家にホームステイさせていただいて、彼はホテルに泊まっていたと思います。

日本に帰国してからもクリスマスカードのやり取りが続きました。東京にいたときは、東京に来るからぜひ会いたいということで、東京を案内したり。ただわたしの狭いアパートに連れていったときには、こんなところに住んでいるのかと、さすがに驚いて言われた記憶があります。わたしにとっては楽しい1年間でした。

八戸に戻り、2000年ちょうどに八戸クラブに入会を許されました。2003年くらいからRIから各地区で識字率向上委員会を設置しなさいというお触れが回りました。当時はポリオがそろそろ終わるだろうという見込みで、ポリオの次は識字だというのが暗黙の了解でした。先ほど村井パストガバナーもおっしゃっていましたが、ガバナーを集めてやるロータリー研究会でも分科会として識字が取り上げられていました。

わたしはその頃は若くてやる気もあったので、オーストラリアのパストガバナーに連絡を取って、いろいろ識字の情報をいただきま

した。その時にご紹介いただいたのが、タイのバストガバナーのラタナビッチ女史でした。この方が詳しいということで、わたしは何とかこの青森に呼んできて、少し啓蒙活動をしたいと思って、いろいろ識字率向上セミナーなるものをやりました。その時、先日お亡くなりになった川口彰五郎ガバナーの時にそれをやることになり、地区の事業としてやりました。その当時は皆さんのテーブルの上の缶がアジア献金。それで集まったお金を使って識字セミナーをしました。

その後、R Iのレベルでも識字がどんどん進んでいくのかと思ったら、実はそうはなりませんでした。なぜならなかったのか。1つにはポリオが終わらなかった。今でもなかなか終わらないものですから、識字にバトンタッチというふうにはいけなくなった。もう1つは水事業のほうがすごく優勢になってきたことです。

わたしも識字の現場に見に行ったり、タイやフィリピンに行きましたが、そこでみて感じたことは、やはり識字教育はなかなか時間がかかります。例えば小学生に識字教育をして、その人たちが15年、20年経って成人になった後、ちゃんとなっているかはなかなか時間がかかって確かめられない。そこにいくと水事業は一目瞭然です。わたしも水事業に

も携わったのですが、何たって浄水器を持ってきて、今まで飲めない水だったものがきれいな水で出てくるのは、まさにマジック的效果があります。これで負けたという感じで、識字はどんどんあまり語られなくなってきたという具合です。今もたぶんこの地区でグローバル補助金を使ってやっているのは水事業だと思います。

わたしから最後に、財団というのは寄付がつきものですが、寄付するだけではなく、それをいかに賢く有効に利用するかをクラブで考えていくほうがいいのではないかと思います。今わたしが在籍しているのはオーストラリアの9630地区ですが、その地区の地区補助金の使い方を見ていると、クラブがみな連合します。みんな少しずつのお金を出し合って大きなお金にして、それで補助金をもらって外国でやる。外国から報告が上がってくると、みんなそれをシェアしながらああでもない、こうでもない。そうすると盛り上がります。クラブの中ばかりではなく、参加したクラブがいろんなふう意見交換をしたり。そういうものは実に合理的だと思いました。八戸クラブは素晴らしいクラブですので、どんどん地区を引っ張って、やっていっていると思います。どうぞ皆さん頑張ってください。

出席報告						出席委員会											
第3248回例会（11月2日）				第3246回例会（10月19日）													
出席率		51.7%		出席率		53.3%		修正出席率	100%								
総会員数		61名		出席数	31名		総会員数		61名		メイクアップした人数	名					
出席義務会員	60名		出席免除会員	1名		欠席数	29名		出席義務会員	60名		出席免除会員	1名		欠席数	名	

—— 第3249回 八戸・八戸東ロータリークラブ合同例会 2022.11.11 ——

例会は八戸東の石橋会員の司会により、若山会長の点鐘に続いて会長要件を八戸東、八戸の順に同じく幹事報告と続きました。

「ロータリー四方山話し」として八戸からは村井会員、八戸東からは岩岡会員がそれぞれ思い出などを織りまぜながら話しました。最後は小林会長の点鐘で例会は終了となりました。

懇親会は八戸・八戸東の両幹事の司会で始まり、若山・小林会長の挨拶、そして乾杯の発声は小井田八戸直前会長の音頭で懇親会の幕明けとなりました。

お楽しみのビンゴ大会の後は築館ガバナーエレクトの来年に向けての決意、そして中締めは柿崎八戸東直前会長の一本締めでおきらきとなりました。



